

平成 23 年度県立学校リーダーズプラン推進事業実施報告書

学校番号	39	学校名	東濃高等学校	全日制・定時制	通信制
------	----	-----	--------	---------	----------------

プランの名称	外国人生徒支援プラン
--------	------------

<p>1 活動の概要</p> <p>※ 活動の状況が分かる写真と説明を別紙様式 2-3 に添付すること</p>	<p>①放課後に部活動の一環として日本語補習を開講。外部機関に日本語指導の講師派遣を依頼し、敬語や語彙を中心に、日本語検定受検を目指して週 2 回定期的実施した。</p> <p>②「先輩の声を聴く会」と題して、講演会を 2 回実施した。講師の方に来日の経緯、日本の学校で体験したことや現在の仕事に就くまでどのような勉強をするとよいかなど、生徒に具体的なアドバイスをいただいた。</p> <p>③小学生用の国語辞典を購入し、日本語の習得のために、分からない語句はすぐに調べるよう指導した。国語、社会等、教科の授業での理解に役立った。</p>
<p>2 目標達成度</p> <p>※ 評価の観点（各種指標）の集計結果</p>	<p>①外国人生徒の日本語能力を向上には個人差があり、学習意欲が高い生徒は語学力が確実に高まっていった。補習の参加と検定への取り組みを通して、各教科の授業の理解度が上がっている。一方、学習意欲がやや低い生徒は、補習に常時参加ができず、日常会話でも、仲間同士で話す場合は、母国語で話すことが多かった。これでは、日本語能力の伸びが停滞気味になってしまうので、補習への参加を何度も呼びかけ、日常会話から日本語を常時使用するよう指導した。</p> <p>日本語補習は週 2 回、年 80 時間実施。平均 5.1 人の参加だった。何度も呼びかけて参加を促したが、家庭的な理由や経済的な理由から放課後すぐに帰宅する対象者(特に 1 年生)がやや多く、もう少し多くの参加者にすることが課題であったといえる。</p> <p>補習は日本語検定 6～7 級の内容から始め、11 月中旬に 4 級の問題にも取りかかり、難易度は確実に上がっている。</p> <p>検定の結果 20 名受検（3 年 4 名、2 年 10 名、1 年 6 名） 5 級認定 1 名、準 5 級認定 4 名、6 級認定 1 名、7 級認定 2 名 なお、補習に日本人生徒 1 名が参加していたが、日本語検定を受検し、準 3 級に認定された。外国人生徒が積極的に日本語を学習する姿を目にし、良い影響を受けたと生徒は言っている。</p> <p>②欠席者を除く全員が講演会に参加し、話者の話に聞き入り、将来の進路など改めて考えるいい機会となった。国際関係の仕事に興味を持つ日本人生徒も 2 名参加した。</p> <p>③1 年国語総合の授業で導入した国語辞書を、多くの教科で活用し、学習内容の理解を深めることができた。分からない言葉を辞書で調べるといふ、自ら学ぶ習慣が身に付いた。</p>

<p>3 成果の分析</p>	<p>①補習は昨年度と同じ講師の指導を受けることができ、生徒の個々の能力に応じた内容を実施することができた。また、今年度より導入した日本語検定に向けて学習内容を計画したことで、学習への意欲が維持できた。次年度も上の級を目指して、補習で日本語学習を継続したいと考えている。</p> <p>②小学校のスクールサポーターをしている中国出身の日系人（中学時に来日）と、病院で通訳兼事務の仕事をするブラジル出身の日系人（24歳で来日）による講話だった。学生の時、日本人から受けた差別をどうやって乗り越えたかという話で、生徒は勉強することや自分にできることを見つける大切さを実感していた。また、ブラジル出身の講師に「日本の学校で勉強できることがとても羨ましい」と言われ、生徒は改めて自分の置かれている環境に感謝の気持ちを持つことができた。参加した日本人生徒は、将来外国へ行ったときに直面するであろう経験談や、外国人が日本で働く中で抱えている問題を生で聞くことができた。</p>
<p>4 課題の分析と改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動系の部活への参加、アルバイト、家庭の事情等で帰宅する生徒がおり、補習への参加を頻繁に呼びかけても、反応がやや乏しかった。中には、日本語習得への意欲がやや低い生徒もいるので、すべての生徒に、日本語学習の必然性を持たせるような工夫が必要だし、意欲的に学ぼうとする手立てを考えていきたい。 ・日本語検定は定期的に学習していないと合格するのがとても困難である。放課後の補習以外にも、定期的に時間がとれるにしたいと考えている。国語科を初めとする教科担任と相談していく必要がある。 ・講演会を昨年まで放課後に実施していたが、今年度は HR の時間で実施した。対象の外国人生徒にとっては、授業時間の中での講演会という、半ば強制的な形ではあったが、実際に先輩外国人の体験談は、自身の今の生活を振り返るのに有意義であったといえる。
<p>5 生徒の感想・意見</p>	<p>①補習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定の勉強で熟語や反意語、類義語を多く学習し授業で役に立った。（3年女子） ・敬語の練習ができたので、普段の会話や会社などの面接で役に立った。（3年女子） ・入学したときより、だいぶ日本語の力がついたことが実感できる。（2年女子） ・日本語だけでなくビジネスマナーも教えてもらえるので、日本の会社で働くための準備ができた。（3年女子） <p>②講演会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いてよかった。これから頑張ろうと思えた。（2年女子） ・日本など他の国で生活することは難しい。でもちゃんと国語の勉強をすれば生活できる。とても役に立つ内容だった。（2年男子） ・講師の方が言われた通り一日を大事にすることが本当に必要だと思った。（2年男子） ・どの外国人もつらい思いをすることがわかった。（2年女子） ・自分も日本人より良い点数をとれるよう頑張りたい。（1年男子） ・講師の方と似てる体験がたくさんあった。これからもきっと似たようなことがあるだろうから、聞いたことを参考にしたい。（1年女子） ・「とても苦労して苦しんだからこそ今の自分がいる」という言葉に感


		<p>動した。(1年女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の親が言うことと同じだった。やっぱり勉強が大事だとわかった。(2年女子) ・一歩踏み出すと世界が広がり、自分が強くなることがわかった。(2年女子)
	<p>担当教職員の意見</p>	<p>①昨年度から同じ講師に指導してもらうことで、生徒の実態（特に語彙不足、自動詞、ら抜き言葉、敬語などの苦手な部分）をピンポイントで指導し、内容の実施を図ることができた。日本語検定に向けての学習については、生徒が具体的な目標を持ち、継続して取り組むことができた。補習の回を重ねるごとに生徒からの質問内容が複雑になっていき、回答に窮する場間もあった。文法的な説明などは、日本語指導の専門家や何年も外国人の日本語指導をしている経験者でないと難しいと実感した。</p> <p>②日本の学校を卒業した日系人の方と、成人してから仕事で来日された方とを招き、生徒は複雑な境遇を抱えることへの共感を抱いていた。講師の母国での日系人に対するいじめの話は、日本生まれの生徒にとってかなりショックな内容であった。どの国でも、どんな人種であっても、夢を持ち、それに向かって頑張っていく人達の話は得るものが大きい。日本人生徒にも聞かせてやりたいと思う内容であった。</p> <p>ただし、こうした外国人として働いている講師を見つけるのがとても困難であった。どこかの関係機関などに、講演を引き受けてくださる日系人や外国人のリストがあるとありがたいと感じた。</p> <p>③外国人生徒が年々増える中で、在日期間が長い生徒が増えてきている。こうした中でよく見かける問題点として、例えば、小学校低学年ぐらいで来日した生徒は、言葉の問題等で内容がよく理解できないまま過ごしてしまい、概念に置き換えて考える作業ができないままで進級していることがある。それにより基礎的な学習能力が身についておらず、学ぶことに嫌気がさして、学習意欲がなかなか高まらない。友達や家族など、周りの影響で高校進学を決意するが、学習面で勉強についていけず、支援員に説明されても理解出来ない場合がある。こうした生徒への適切な指導や、カウンセリングなどを行っていくことが望まれる。</p>

平成 23 年度県立学校リーダーズプラン推進事業活動状況

学校番号	39	学校名	東濃高等学校	全日制・定時制	通信制
------	----	-----	--------	---------	----------------

プランの名称	外国人生徒支援プラン
--------	------------

活動の概要

写 真 等	説 明
	<p>通年実施 放課後日本語補習 具体的な場面を設定し、日本語習得の指導を行った。 日本語講師 近藤利恵先生</p> <p>2月16日実施 先輩の声を聴く会 講師：中垣ミリアンさん 24歳でブラジルから日本に来て働いている先輩の講話 (報告書の中に記載)</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>	
<p>1年生から3年生まで、40名近い外国人生徒が在籍していると聞いた。文字通り外国人の生徒と日本人の生徒が「共生」している学校だと感じる。国際化が進む社会の中で、日本人だけで学ぶとか、仕事をするとかいう時代では無くなってきている。外国人生徒と一緒に学ぶことが日本人生徒の国際感覚を養う刺激となってくれることを望む。外国人生徒と日本人生徒が互いに切磋琢磨して成長して欲しい。</p>	

* 本様式は、別紙様式3に記入したプランの名称ごとに別葉で作成すること。